

にしだ 昭二 県政通信



2014
初春号

七尾が大好き



平成25年12月県議会一般質問をする西田昭二県議



商工労働公安委員長として
平成25年年末警戒で片町を巡回する西田昭二県議

皆様 新年明けましておめでとうございます。県議会議員の西田昭二です。

アベノミクス効果で、少しずつ政治経済が安定し、株価や円相場も上向き加減を見せ始め、全国的に景気の浮揚に包まれているところであります。しかし、まだ地方においてはその波に乗り切れていないところではあります。

そんな中で昨年末、自民党県連において今春に行われる知事選挙の候補の擁立に向けての騒ぎがありましたが、賛否は別として選挙も一つの選択肢かもしれませんが、今大切なのは混乱を回避してでも、政治が安定して、まだまだ厳しい状況を脱するための施策を一刻も早く打ち出して欲しいと市民を始め県民の皆様が期待をしていると思っております。

これから北陸新幹線や能越自動車道の完成によって、この地域が新たな能登の玄関口として多くの観光客が来ていただけると期待される中でありますが、七尾市のおもてなしが地域の活力に繋がるよう全力で取り組んでまいりたいと思っておりますので、皆様方の温かいご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

石川県議会議員 西田昭二（2期 44歳）

県議会での主な略歴 ◎：委員長 ○：副委員長

H25年	県議会	◎	商工労働公安委員会	・	県議会	○	防災対策特別委員会
	"		政策調査会検討委員会 座長				
H24年	"	◎	環境農林建設常任委員会	・	県議会	○	決算審査特別委員会
H23年	"	◎	厚生文教常任委員会	・	"	○	新幹線対策特別委員会
H22年	"	○	文教公安常任委員会	・	"		地域経済・雇用対策特別委員会
H21年	"	○	総務企画常任委員会	・	"		循環型社会形成特別委員会
H20年	"	○	土木企業常任委員会				
	"		地域防災・活性化特別委員会				
H19年	"		厚生環境常任委員会				
	"		交通交流世界遺産特別委員会				

～にしだ昭二事務所～

〒926-0173 七尾市石崎町ソ部5
TEL & FAX 0767-62-2525

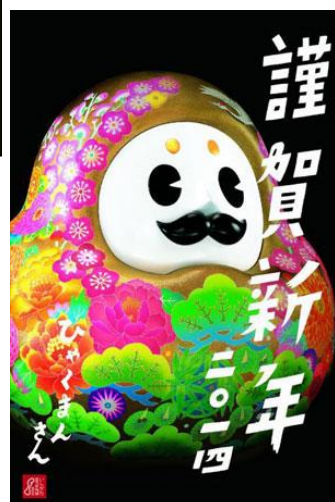
初心を忘れることなく！ 9月議会一般質問・12月一般質問

県議会初当選から12月議会で27回の県議会定例会が行われ、これまで初回からずっと一般質問や委員会での質問を続けています。細かな質問もありましたが『地元七尾を大切に』との思いであり県議会議員として県との『つなぎ役』に徹する思いは今も変わりません。以下は、9月議会一般質問及び12月議会一般質問での私の質問と執行部の答弁の趣旨です。

北陸新幹線開業を見据えた観光戦略について 【平成25年 9月議会にて】

《質問趣旨》「ひやくまんさん」キャラクターのデザインについて先の商工労働公安委員会でも賛否両論の意見があったが、まずは、県内で石川県を代表するキャラクターとして認知を図る必要があり、県内のキャラクターが集合するイベント等を行う考えはないか。

《知事答弁》石川の伝統工芸をイメージさせる風格あるデザインを採用し、「いしかわ百万石物語」を象徴するキャラクターとして、大事に育てていきたい。様々な意見があることは承知をしているが、まずは大いに関心を持っていただくということが何よりも大切。愛称募集では県内外から約五千件の応募をいただき、関心の高さを見きわめる上で上々の出足であった。今後、県民の皆さん方から愛され、他に誇れる自慢のキャラクターとして育ていくため、県内での認知度向上は何よりも大切である。まずは、新たに編成します広告宣伝の専門家を交えたチームで、御指摘のゆるキャラ集合イベントなども含め、どのような手法やイベントが効果的でふさわしいのかを含め検討する。



ひやくまんさん
年賀状写真(石川県提供)

能登地域における手話通訳について 【平成25年 9月議会にて】

《質問要旨》聴覚に障害をお持ちの方々にとりましてはコミュニケーションの確保は日常生活を営む上で必要不可欠であり、手話通訳者の果たす役割は大変重要であると思うが、能登地域では十分ではなく、受講するにも不便だと聞いており、受講の機会をふやすことができないのか、所見を伺う。



H25.10.4 北陸中日新聞

《北川健康福祉部長答弁》本県の市町における手話通訳者の配置状況は、18市町に配置している。能登北部地域に関しては県市町、関係団体による検討を進めた結果、平成18年度から能登北部4市町共同で1名が配置され、市町ごとに週1日ないし2日、曜日を決めて対応している。現在、県内の手話通訳者は90名登録されている。これは県全体では全国的にも高い水準ということであるが、能登地域では9名で全国平均をやや下回る水準である。こうした状況は各地域における手話通訳者のニーズの状況に加え、養成研修が、金沢で開催されてきたということも一因ではないかと考えているが、今後、研修のあり方については市町、関係団体ともよく相談をしてまいりたい。

その他、以下の質問をいたしております。
【平成 25年 9月議会一般質問にて】
◎東京オリンピック開催決定を受けて
◎スポーツ合宿の取り組みについて
◎園場整備促進と地域特産物について

その他、以下の質問をいたしております。
【平成 25年 12月議会一般質問にて】
◎能登の振興策(JR関連・無電柱化)について
◎炭素繊維の開発と県内産業振興について
◎防災訓練について

能登の振興策について【平成 25年 12月議会にて】

《質問要旨》北陸新幹線開業や能越自動車道開通に向け能登地区のスポーツ合宿に力を入れるべきと思うがどうか。スポーツ合宿のメッカを目指している七尾市の取り組みをどう見ているか。

《蟹由観光戦略推進部長答弁》合宿の誘致は団体での連泊や平日の利用、さらには将来のリピーターも期待されることから地域の活性化にとって重要な取り組みである。各市町ではスポーツなどさまざまな分野の合宿誘致に向け経費面での支援や施設利用での優遇措置などを講じているなか、七尾市ではサッカーやテニスなどターゲットを絞ってハード整備を行うとともに強豪校の合宿誘致にも力を入れるなど、様々な波及効果を狙うという戦略的な誘致活動を行っているだけでなく、地域が一体となった取り組みは大いに参考とすべきだと考える。今後とも、スポーツ合宿の受け入れに磨きをかける七尾市などとの取り組みと連携し、新幹線開業を追い風により積極的に合宿誘致に努めてまいりたいと考えている。



北國新聞

田中陽子選手ら合宿スタート

リラックスした表情で練習に取り組む田中陽子(左から2人目)ら
I N A C 神戸の選手 ー七尾市の能登島マリンパーク海族公園

アンテナショップについて【平成 25年 12月議会にて】

《質問要旨》他県では、公益法人や民間業者が運営しているところもあるが、本県の新たなアンテナショップの運営について聞く。



25.9.19 北國新聞 /北陸中日新聞



《知事答弁》具体的なことについてはアンテナショップ機能強化検討委員会で議論をしていただくということになりますが、北陸新幹線金沢開業に向け県産品の販売に加え、販路拡大や観光誘客など本県の総合的なPR拠点としての機能を最大限発揮できるように、来年秋のオープンに向け準備には万全を期してまいりたい。

七尾湾の漁業振興について【平成 25年 12月議会にて】

《質問要旨》海の幸が地域振興に大きく貢献している七尾湾は人間社会と深いつながりを持った里海だと思うが、七尾湾の漁業振興について、県はどのような考えで取り組んでいるのか。

《水野農林水産部長答弁》七尾湾は一年を通し波が静かでナマコやトリガイ、サヨリなど地域特有の魚介類の漁獲や県内では唯一カキの養殖業が営まれている。カキの養殖には、水質調査を行い、カキいかだの適正配置などの普及指導に努め、現在では日本海側随一の生産量を誇り、市場関係者からは高評価いただいている。また、七尾湾は天然トリガイの好漁場としても知られ、市場からも大型で肉厚、味覚も高い評価を得ているが、漁獲変動が大きいことから養殖技術の導入によるトリガイの安定供給を目指し、H22年度から技術開発に取り組み、H24年度からは試験養殖を実施するなど、H27年度の本格出荷に向け各種取り組みを進めており、今後とも七尾湾地区の漁業者、漁協、市町と連携し七尾湾の漁業振興を図ってまいりたい。



地元のナマコを活用し
て開発されたブリン

能登フグPRへ勉強会
調理法など 和倉温泉「女将の会」



H25.5北陸中日新聞

女将らに提供される能登で水揚げされたフグー七尾市和倉町で

のと鉄道今後の収支は

西田昭二氏

(自民)

確保できる見込みだ。
〔ほ場整備〕実施状況を聞く。

水野農林水産部長

収支をどうみるか。今後の黒野企画振興部長

観光列車の導入や、新設する安全運行対策基金の支援策により、10年度は必要資金を24地区は能登だ。



〔能登の手話通訳〕市町職員は、北川健康福祉部長、市町、関係団体と今後、県内の職員配置は9市のあり方を相談する。企画振興部長 10年程度は資金を確保

富山に一時避難訓練

原子力防災で来年度以降

志賀原発の重大事故が富山に避難すべきかを想定した原子力防災訓練で、谷本知事は来年度以降、富山に近い地域の住民については、事実は本会議後、「一時避難を越えて富山の施設に一時避難する訓練を行う方針を示した。西田氏に答えた。原方々の安心、安全に発周辺のどの地域の人がなると述べた。

のと道事故大幅増

交通安全対策

道路の無料化後、のと里山海道での交通事故件数が大幅に増加している。桐原弘毅県警本部長が西田氏に答えた。今年四月から十一月

25.12.7 北陸中日新聞

新聞記事あれこれ

25.9.19北國新聞

〇：谷本知事は本会議前、顔見知りである七尾市の女性団体や同市ろうあ協会の会員を傍聴席に見つけ、近づいてあいさつ。女性が「知事選の応援に来ました」とエールを送ると、「いやいや」とうれしそうに照れ笑い。協会メンバーとは自ら手話で意思疎通を図り、「これ分かんやろ」と西田氏にドヤ顔。地元からの応援をすっかり食われた格好の西田氏だったが、質疑では手話通訳者の研修で前向き答弁を引き出し、支持者にも顔が立った様子。

和倉の無電柱化進めよ

西田昭二氏

(自民)

パークの区間も事業着手へ準備を進める。

〔無電柱化〕和倉温泉新幹線の二次交通として、谷本知事利用状況は、和倉温泉駅とパークの間でも整備を。谷本知事 15年春の完成を目指す。駅から



〔救急患者〕能登北部の病院で対応できない場合、他地域に搬送される割合は。北川健康福祉部長 11年は救急患者2800人のうち能登中に150人、石川中に50人が運ばれた。

25.12.7 北國新聞

成果あり 心痛めた

〇：冒頭、自民県連の知事選対応について「熱い議論がなされた」と切り出した西田氏。一時は独立候補擁立の動きが強まり、「人知れず心を痛めていた」と打ち明けた。主戦派にも気を配り、「どちら側にもふるさと石川を愛するがためだった」と述べると、金沢の県議から「そつだ」との声も飛んだ。肝心の答弁では、知事自らが長い時間を割いて能登への施策を丁寧に説明し、配慮がありあり。貫して現職支持の姿勢を示していた西田氏の思いは、十分伝わったよう。

桐原本部長は、県内の事故多発の状況に「総力挙げて街頭活動を強化中。冬季に入り降雪や凍結によるスリップ事故も懸念される。重点警らや年末の交通安全運動など自治体や関係機関と連携し、事故抑止に取り組む」と話した。県によると、無料化後は通行量が平均一・五〜一・九倍に増えている。